



東京部会(第16回)

日時: 2008年10月23日(木)19:00-22:00

場所: 日本大学経済学部3号館(図書館)4階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、加藤(日大)、中川(日大)、大倉(文科省国立教育政策研)、小島(神戸夙川大)、新井(都立西高)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、三枝(目黒中央中)、梅窪(日本経済教育センター)、中沖(清水書院)、鬼塚(日本FP協会)、宮尾(国際大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生よりの報告

- (1) ワークショップを今後以下のように開催予定で準備中；( )内は担当者：  
南岩手(猪瀬) 11/26、福井(加藤) 11/29、東京(新井、高橋) 1/22、神奈川(梶ヶ谷) 3/6、東京(三枝、加藤) 年度内、福岡(新井) 時期未定  
(2) 10/4に篠原先生が、八戸市中学校公民研究会で、「中学校公民」教員研究プログラムの実験(教科書に沿った説明)を行ったことについての報告  
(3) 中学向けのワークショップの内容をチェックするために、中学の先生に参加してもらう必要があり、今後の課題とすることになった。  
(4) 東証での来年のプログラムについて(新井先生からも説明があり)、中・高を分けて行い、事前のリサーチをもとに内容を決める予定。  
(5) WEB改修の最終案を詰める。「トピックス・レポート」の欄に、これまで「オープン討論室」にアップされていた書評を載せる(宮尾が整理して西村先生経由でアップ)。またその欄には、文献の紹介や研修やワークショップで利用したパワーポイントのスライド(中川先生の東証での発表用の資料)なども載せることとした。

2. 中川先生の開発した公共財(マンション改修)に関する教材が、10月3日の弘前の「知るぽると」の「金融教育公開授業」で取り上げられたことが、篠原先生より報告された。その際に、教材の意図が十分理解されず、最初から皆が払えばうまくいくという結論が先取りされてしまったとのこと。以前は逆に、自分だけ払わなければ得だというところで活動が終わり、教材の意図が曲解されたこともあり、この教材を扱う教員に予め全体の意図を明確に説明することが重要であると指摘された。さらに、マンションがあまりない地方でこの教材を使うのは難しい可能性があるので、同じ内容が使えるマンション以外の例も考えることとした。

3. 新井先生より、10月12日に開催された「日本社会科教育学会」での発表論文『教育系学生はなぜ経済がきらいか』が配布され、その内容についての背景と要旨の説明があった。その上で、この論文を、経済教育ネットワークHPの「トピックス・レポート」の欄に載せるという提案があり、参加者全員が賛同した。

4. 高橋先生より、「職員室で先生方と聞えるような経世済民の内容」の指導案『豊かさを分け合う「経済」を考える』が配布され、使われている数値例について、また「豊かさ」とは何かについて議論があった。これを1月22日の東京でのワークショップで使う予定とのこと。

5. 宮尾より、現下のサブプライム問題・金融危機の問題について、論点整理メモ『私論：サブプライム・金融危機をどう取り上げるか』、および中沖さん(清水書院)提供の『資料・政治・経済：資料・現代社会』が配布された。これをもとに、この問題についての現在と今後の課題を、高校生にも分かるように説明するつもり。

6. 小島先生より、11月29日に福井のワークショップ(中学対象)で使う予定の教材提案『公民で「企業」をどう教えるか(案)』が配布され、内容の詳しい説明があった。議論は当面11月のワークショップ向きに企業を軸とした話しをどう展開すべきかという点と、より長期的に企業を軸に経済全体の仕組みをどううまく説明するような教材ができるかという点に集中した。

7. 三枝先生より、「牛井モデル」の実践で気づいた問題、特に最後の「振り返り」の点に関する問題が指摘された。また梅窪さん(日本経済教育センター)と加藤先生からも、牛井モデルを使って、弘前や大阪などで行った研修の様子と問題点(特に小学生レベルでの問題)が報告された。

8. 最後に大倉さん(文科省国立教育政策研)より、新しい指導要領にある「直接金融」と「間接金融」について、先生方や教科書の書き手に正しく理解させるとともに、うまく教えられるように、説明会で解説していること、またよい資料も出ていることが指摘された。篠原先生より、以下の資料が推薦された。『新学習指導要領ハンドブック：中学校社会』(時事通信社)。

(文責：宮尾)

次回開催予定：11月13日(木)19:00~21:00、日大経済学部3号館4階会議室

今回課題となった点(企業モデルの説明など)をさらに検討する。